

[富士紀行 4 5 号](#)で紹介した富士宮市の旧陸軍少年戦車兵学校跡を先日富士学校機甲科部の機甲生徒課程と幹部初級課程学生が研修した。この研修は機甲科部が昭和 5 2 年頃から続けているものである。

機甲生徒課程の存続が風前の灯火でもある今日、二十歳未満の若者が少年戦車兵学校跡を訪れ、何を感じたのかを知って貰いたい。

そして、機甲生徒の意義について再考してみるのも良かろう。戦車乗員としてのセンスと高い整備能力を有する彼ら機甲生徒は、全国戦車部隊にとって正に金の卵であり、赤谷機甲科部長以下が心血を注いで訓育に当たっている。理想的な戦車乗りとは、運用も整備も兼ね備えた者を言い、機甲生徒はその条件にぴったりなのだ。機甲生徒が廃止された後は、どのようにしてそのような乗員を育成するのだろうか。

優秀な乗員は一朝一夕に育成できるものではない。数年に亘る厳しい訓練や訓育を通じて漸く一人前の戦車兵が誕生するのだ。

研修では、少年戦車兵学校の卒業生であって中国戦線で活躍、終戦に伴い復員、建設省に入省され、現在は少年戦車兵学校卒業生の親睦団体である若獅子会の会長でもある吉留一利氏の講話を拝聴したとのことである。

以下、機甲生徒の所見（抜粋）の幾つかを紹介する。これが、二十歳前の若者の素直な所見なのだ。一般社会の若者に比して何と純粹でひたむきなことか。日本もまだ捨てたものではないと感じるのは私のみではあるまい。

- ① 今の日本は平和が続き、細を知らない人たちが一杯いる。そんな中、機甲生徒隊として、戦車の教育を受ける自分たちは少戦校の先輩達のような一所懸命さ、自分が頑張ることでその成果が国のため、家族のためにな亭という信念を見習わなければならないと思った。(T生徒)
- ② 我々機甲生徒の原点を知ることが出来た。少年戦車兵の設立の背景を知り、彼らの教育内容を知り、実戦の中での活躍を聞き、自分の中の言葉で言い表せない何かはマグマの如く熱く燃え上がり今までの自分の教育を受ける姿勢を恥ずかしく思いつつ今まで以上に戦車に対する思いが強くなりました。機甲生徒隊の隊歌の中に「誉れ残せし、豆タンの偉勲を継ぐは我なるぞ」とあります。少年戦車兵と言う「原点」をしっかりと受け継げるよう日々努力して行こうと思います。・・・最後に今回の研修を通じて学んだ多くの事を今後の教育や部隊で活かしていきたいです。「機械を知ることには戦場における最大の武器となる」という吉留先生のお言葉を胸に日々精進し、少年戦車兵の如く「純粹」さを忘れず頑張っていこうと思います。(Y生徒)
- ③ 戦地から戻ってきたチハ戦車を見て自分はゾクッとしました。穴だらけで如何に敵の弾を受けたかわかりました。その中で戦い抜いた彼らのことを思うと胸が痛いです。  
少年戦車兵と機甲生徒、自分はなにか他人事のような気がしません。言葉ではうまく言えませんが胸がいっぱしで帰還戦車を見るときには涙が出そうでした。・・・我々機甲生徒隊も頑張らなければと改めて実感しました。(N生徒)

- ④ ボロボロのチハ車を見たときにはその戦車が当時おかれていた状況を創造することができました。また、吉留さんの話を聞いた時もし感じました。特に「敵の弾が飛び交う中で壊れた戦車を修理する」という話で牟ぼろげにですが戦争とはこういうものなのかと思いました。・・・吉留さんは今でもチハ車の事を良く知っていて「壊れたときのエンジンの積み卸しも自分が指揮してやった」と言われたのを聞いて当時の少年戦車兵学校の教育はすごいものだっただろうなと思いました。(Y生徒)
- ⑤ 少年戦車兵学校のレベノレの高さを実感し、諸元等を覚えているということは やはりそれだけ戦場では諸元を覚えておくことが大切なんだなと思いました。・、 …これからは自衛官として軍人として日本人としてどう生きていくべきなのか今一度よく考えなければいけないなと思いました。そして「強く、清く、深く」「即断即決」の精神で生きて行こうと思いました。大日本帝国陸軍少年戦車兵学校出身の諸先輩方の意志を継ぎ御国のために頑張ろうと強く誓いました。(O生徒)
- ⑥ 整備の基本をしっかりと体で覚えて戦場に向かった少年戦車兵の方々には今の我々も見習うことがたくさんあると思い、それと同時に今まで以上に戦車の勉強をして当時の戦車兵に負けないようにしなければならぬと思いました。(S 生徒)
- ⑦ 戦車部隊の目標とすることは今も昔も変わっておらず、戦車乗員でありながら整備が出来るという少年戦車兵そして'私たち機甲生徒の磨くところではないか' と思った。・ …今、私たちは機甲生徒として機甲・機甲整備の二つの MOS を取るべく、日々訓練に励むのはかつての少年戦車兵の方々の良き伝統を受け継ぎ、誇りに思うと同時に負けないようにしたいから。  
最後に少年戦車兵と私たち機甲生徒隊の目標は一人前の戦車マンになるということであると思う。(M生徒)